うしく里山の会 広報誌
さとやま
No. 114　2012年8月号

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
HP http://ushiku-satoyama.org/
（アドレスが変わりました）

牛久市協働事業巨木リサーチ2の樹木ガイド活動

巨木リサーチ2ガイド活動責任者　平塚 芳雄

12.4.28 戸塚

「市民の木No.1ケヤキ」と八幡神社の由緒を説明する筆者

去る6月17日（日）、今年度第2回目の樹木ガイド（市の応募呼称「巨木探訪会」）を途中降雨もありましたが、ほぼ予定通りの内容・時間で実施できました。参加者は総勢25名（応募参加20名、市側1名、里山の会4名）で、ガイドコースは牛久自然観察の森及び柏田神社境内でした。

単に樹木を紹介するだけでなく、市内の林地の現況（経済価値の喪失、その結果として管理放棄による荒廃・遷移の進行）や牛久自然観察の森の情況、神社の社殿や石造物等の関連文化財も案内しました。

平成21年度から開始したガイド活動も残すところ後1回（今年10月実施予定）となり、これまでの活動情況を振り返り、その意義等について考えました。

「樹木ガイド」は平成18年度から3年間に渡って実施した市内の巨木等の調査結果を市民に知らせることにより、市民の巨木等の樹木やその生育環境の保全に関心を高め、理解を深めてもらうことを目的に、協働事業のフェーズ2の事業として開始したものです。

この活動は市緑化推進課との協働事業で、市側は参加者募集、バスの手配等を分担し、里山の会側はガイドコースの調査・設定、配布資料の作成、当日の案内等を分担してきました。各回のコース設定は過去の調査結果を基に地域性、代表的樹木の有無、季節等を考慮し、テーマとコースを定めてきました。

配布資料の作成においては牛久の樹木、森林、自然をより親しみをもって理解してもらうため、樹木に関してだけでなくその生育環境、更にはその地域での人々の生活との関わり（歴史）等を盛り込み、ガイド当日だけでなく後日の参考になるような内容を考えました。

平成25年3月までの4年間に10回の開催を計画し、既に9回実施しました。

雑木林応援隊　原口　愛子

これまでの応募参加者は延べ２００名を越え、大きな事故もなく計画通り実施できたこと、参加者のアンケート結果も好意的なものが多かったこと等から、その目的は達せられつつあると思われます。そして、うしく里山の会は「美しい郷土の自然を次代に引き継ぐ」を掲げて活動していますが、「樹木ガイド」もその活動を通じ一定の貢献ができたのではと考えています。

このような一般市民に直接働きかける活動を企画・推進できたのは、樹木や周囲の環境に関し豊な知識と見識を持つリーダーの指導があったればこそですが、今後も里山の会の活動として、この種の活動が企画・実行されることが望まれます。

6月の活動状況

◎応援隊

○６月10日の活動報告

ムジナの里で竹垣補修作業。入口右側１５０ｍ程の道路との境界に竹垣を２００５年に設置。当時は道路から杉林に向かってゴミや空き缶・空き瓶を投げ込まれ荒廃していた。

そこで、人が監視している意味と竹林整備の間伐材の有効活用を図る目的で竹垣を設置した。あれから7年が経過し、一部が破損して、再びゴミを投げ込まれていたので再整備する事となった。

再生は竹の間伐から始まり、杭の準備等に時間が掛かりましたが、始めると作業は早いです。隊員の皆さん慣れた手つきで、以前は実作業日で、６日は掛かっていたが、今回は２日位で終わりました。一番大変なのが、いぼ結びです。一か所ずつ結ぶ作業ですが、回数を重ねた結果、皆さん結束が上手くなり短時間で終了。次回は反対側約１００ｍの予定です。

竹がきに取り組む隊員たち

○６月24日の活動報告

梅林の除染作業。

梅林下の芝生を剥ぎ取っての除染作業を実施。見えない物の除染なので何処までやるのか不安だが、測定器で計りながら作業を進めました。

場所が広大なのでまずは人が通る通路を実施。駐車場から炭小屋までの約１５０ｍを２ｍ幅に芝生を剥ぎ取る。

最初は、芝刈り機で地面ギリギリまで刈り採った後、刈り払い機で更に芝の表面を根に向かって１㎝程刈り取る。刈り取った芝と土は集塵機で吸い取り所定の場所まで運び

集塵機での吸い取り作業

処理する。測定器で除染前と除染後はやはり大幅に下がっている。しかし、また雨が降れば除染した場所が周りの草地より低くなっているので、周りから流れ込み再び数値が高くなる。この作業を何回か繰り返し行わなければ全体の数値は下がらぬ模様で時間の掛かる作業です。

◎ 畑隊

本年度は11名でのスタートです。

○7月活動予定：（毎週火曜日）9：30～12：00

夏野菜の植え付けと種まき・藍の植え替え。

応援隊・畑隊とも見学者大歓迎です。時間が有れば是非参加下さい。

あやめ受託事業報告

佐藤　輝雄

アヤメ園対策検討を行う

先月、7月号の会報に今年のアヤメ園の花菖蒲は元気がないとの記事を載せた。今年はメンバー全員が危機感に追われたため、7月4日カッパの里学習センター会議室を借り、約3時間にわたり、今後の対策について意見交換会を実施した。

メンバーからは活発な意見が多く出されたが、まとめると①連作障害のため土壌改良が必要なのではないか。②化成肥料が多いため肥料焼けをおこしているのでは。③株分け方法はどうなのか（根を取りすぎているのでは）。④水の管理はどうか。その他、皆から思い思いの意見が出され真剣に討議された。（皆本当に真剣なのが再認識された）。その結果、いくつかの方法を実験して確認することで意見がまとまった。

実験の方法として区画を絞り、その区画を更に4つに分けて①客土を入れる（赤土・堆肥）＋1株を3～5本と大きくして根を多く付ける。②客土を入れる（赤土のみ）＋従来の株分け方法。③客土しない＋①と同じく株を大きくする。④客土しない＋従来の株分け。主にこの4方法で実験を進めることにした。その他F地区（新しい田んぼ）の各区画をメンバーが各自で実験を進める（お礼肥や有機肥料の使用方法等）これらの方法で推移を観察することにした。

来年度にならないと結果は出ないが、株の生育状態等である程度予測が可能かもしれない。

7月20日前後は気温が22～23℃前後と低い状態が続き、株分けや畝つくりの作業もしやすくなっているが、明日（24日）あたりからまた暑くなるようである。しかし、7月・8月初旬が株分けの時期でもあり作業をやめるわけにもいかない。株分け後は田んぼの水の管理も非常に重要だ。Nさんは毎日のようにアヤメ園にでかけて給水栓の開け閉めを行っている。

一方、株分け対象外の田んぼ（約8割）もヒレタゴボウやヒエ等が一気に伸びてきた。これらの除草も早く進めないと大変なことになる。ちょっとでも気の抜けないアヤメ園の作業である。このような大変な作業をしているからかメンバーの結束力は抜群で時間外の懇親会もすぐに話がまとまる。

実験計画に従っての株分けを進める

街路樹

チーム街路樹20　受託事業報告

小野　正二

山ユリの群生を見て、茨城県水郷県民の森で樹木観察会を実施

梅雨のあけた7月18日、行方市西蓮寺の「井上山百合の里」と「茨城県水郷県民の森」の観察に出かけました。朝から蒸し暑い日でしたが、参加者13名は4台の車に分乗し、ボランティアセンター前を出発し一路、東へ。

11時過ぎ、行方市の西蓮寺着。西蓮寺は延暦元年（782）に創建された天台宗の古刹です。ウイークデーなのに晴天の猛暑の中、駐車場は満車でした。

仁王門前には大きな植木鉢に植えられた山百合の花が沢山並んでいて、見事な大輪の花の匂いが遠くまで漂っています。仁王門を通りぬけると境内には手作りのおにぎり、イナリ寿司や山野草そして竹細工の篭を売っている店がずらっと並んで大変賑やかでした。

「袖きり坂」という急な曲がり坂を下り、竹のトンネルを抜けると急に視界が開けて、周りは田圃で、青々とした稲が風になびいていました。正面のこんもりとした小山が関東随一と言う「井上山百合の里」ですが、その面積は約2万平方メートルで、約2万株の山百合が自生、群生しています。

入り口の係りの女性に聞いたところ「40年も前から」と教えてくれました。入場料は300円ですが、協賛金として里山を管理するために使われるとのことです。

サービスの冷たい麦茶と茹でたジャガイモを食べて、山道を昇りました。右に左に細くて急な山道のすぐ手の届くところに大きな白い山ユリが一輪、二輪と咲き乱れています。大きな白い花で、今が盛りと咲いていました。凄い匂いです。そよ風が吹くたびに、山肌全体が山ユリの匂いで包まれているようです。

シャッターを押す音があちこちから聞こえました。

帰り道で変な匂いがするので足元を見ると何と「蚊取り線香」が置いてありました。Hさんが「自然の中で、山ユリの匂いを楽しんだ後に何とも無粋なこと」とつぶやきましたが、尤もなことです。素晴らしい自然を満喫した清々しい気分も台無しです。

この後、西蓮寺の大イチョウ1号、2号の巨木を見ました。幹周約6m、約8mで高さ約25m，約27mで、樹齢は千年以上といわれていますが、もの凄い大きさに圧倒されました。

昼食後、茨城県水郷県民の森へ向かいました。この県民の森は1979年（昭和54年）設置され、森の総面積は51．5haで、コナラ、クヌギ、クリの雑木林が90％を占め、その他、シラカシ、スダジイなど130種類の樹木があります。また、2005年には第56回全国植樹祭が開催され、園内には天皇陛下、皇后陛下お手植えのケヤキ、ヤマザクラの樹木が大きく育っていました。園内を森林インストラクターの中村紘さんにガイドして頂きましたが、その一部を紹介します。

咲き匂う山ユリ　　小野撮影

この森の特徴は60年前農用林でしたが、人手をいれて昔の農用林の姿を維持していきたい。また、樹木は自然木で、植栽したのはカワズザクラ、エゴノキ、ヤマザクラなどです。

大膳池の水は湧き水ですが、昨年の震災時には底が抜けたのか水位が下がりました。

園内を歩きながら、「今年はコナラの樹が元気なくて心配です」「理由が分かりません」と大木を指差します。確かに葉が枯れていて、色がおかしい。

この他、スダジイの実のこと、ヌルデは「パイロットプラント」とか、エゴノキ、ムラサキツメクサの名前の由来、ネジキの葉を食べると「羊は死にます」とか、クリとクヌギの葉の違いなど面白い話をしてくれました。私が「ガイドして嬉しい時は？」と聞いたら「観察会をした後、小学生がお礼の文集を送ってくれたことでしょうか」「沢山の子供たちがこの森に来て賑やかな時でしね」と嬉しそうに答えて微笑みました。ガイド冥利に尽きるのでしょう。大変暑い日でしたが、楽しい研修会でした。

「山百合の里、水郷県民の森」の研修を企画された假屋さん、会計の簡さんに感謝いたします。

県民の森で観察ガイドの説明を聞く
増田撮影

親子農業体験講座

一般参加者　豊田　慶子

慌ただしい日々をリセット

去年に比べ今年は、小規模での活動ですがアットホーム感が増え畑の規模も狭くなりましたが、内容は濃～い!!です。

今月、メインのじゃがいもですが、ドロシー、とうや、チェルシー、サッシーと何とも可愛らしい品種を植えたものを収穫しました。種イモの切り口を上に向けた場合と下に向けた場合とで出来具合の比較もしたのですが、大差はなくどちらも豊作です！そしてお味もきめが細かくおいしい！

これからの収穫祭が楽しみです。

その他、里芋を例年通りに植えたものとマルチ農法（種イモの上に、鶏糞をたっぷりかけ黒いビニルで覆い収穫時までそのまま）で植えたもの、落花生、西瓜の苗を植え、ごぼうの種を撒きました。ごぼうの種自体、大半の方が初めて見たと言っていましたが、私もその一人で、1cmくらいの間隔で植えたものが1ヶ月くらいで芽がでていたので、感動しました。

大人たちの様子に子供たちも興味津々で近づいてきて一緒に感動を?!・・・違った（笑）

ごぼうの種を植えるのに、肥料などを混ぜ込み

親子で楽しーく　農作業

ふかふかにした土の山に、覆ったわらの下にいた、だんごむしの争奪戦を繰広げていました。そんなに夢中にならなくとも、畑中にだんごむしがいるのに。

子どもたちは、もちろん手伝いもしますが、大人が作業している傍らで虫や蛙やミミズを捕まえたり、土で団子を作ったりと楽しんでいます。

この時計を気にしない時間が、慌ただしい日々をリセットしてくれます。例えば朝、幼稚園に送りに行く時、慌てている時に限って子どもたちがぐずる。そりゃそうだ！慌てているピリピリ感、いつもと違う気迫（笑）人を責める前に、まず自分に目を向けると改善点が見つかります。朝、私があと30分早く起きれば気分がゆったりするのだと。

この農業体験をはじめ自然と関わると気づくことがたくさんあります。生きていくといろんなことに悩まされたり、人に振り回されたりすることもありますが、自然の中に入ってしまえば、たいしたことではないと教えてもらえます。人生って、自分の気持ち次第でどうにでもなってしまうものなのかもしれないですね。

幼虫だったカブトムシ（今年は、幼虫探しをやりました）が、子どもたちより何十倍も小さいカブトムシが空高く飛んでいく姿を見て人間よかすごいものに見えました。

今年も、お世話になります!!

里山自然観察隊

平塚　芳雄

7月のモニタリング1000里地調査

去る、7月13日（金）、月次定例のモニタリング1000里地調査（植物相）を実施しました。

午前8時30分、得月院前駐車場に集合、参加者は常連の3名。いつものように所定のコースでの調査。ただ、通常は第2土曜日に実施するのですが、今回はメンバーの都合で変更しました。当日は梅雨時のハッキリしない空模様でしたが雨には降られず、気温もそれほど高くならずまずまずの調査日和で予定通り12時30分頃に終了することができました。

途中、田んぼの近くでトンボが群れて飛んでいたり、枯れた杭の先にジッと留まっている姿を数ヵ所で目撃。今が活動時期なのか、農薬使用が少ない所なのか、以前、農薬使用を制限している田んぼ周囲ではトンボが増えているとか、ザリガニのいる田んぼではトンボは少ないといった話を聴いたことがあります。ほんとかどうかは確証ありませんが。

今回も道路際の以前は藪になっていた所の多くがきれいに草刈りされていました。本来であればもっと数多くの植物が確認でき、カナムグラやクズ、ヤブガラシ等のつる性植物の日向を競う競演も見られたのにと思うと少し残念な気もしました。それでも今回、草本つる性植物としてオニドコロ、カナムグラ、カラスウリ、クズ、ヒルガオ、ヘクソカズラ、ヤブガラシ、ヤマノイモなどが確認できました。過去にはこのコースでガガイモ、センニンソウ、トキリマメなども確認されています。

調査コースで道路際の西側が急斜面の崖になって続いている所があり、そこではシュンラン、カニクサ、ヤマユリ等も確認できるのですが、すっかり除草がなされた中にヤマユリが数株刈り残され突支い棒が立てられていました。しかし周りがあまりにもきれいに除草され風除けもないためか茎が途中から折れ曲がり大きな蕾も垂れ下がり残念な姿になっていました。

得月院裏の西側斜面林では花の咲いたようなマダケが何本も確認できました。去る6月30日に行われたうしく里山の会主催の「里山セミナー」で解説されたタケ類天狗巣病です。その辺の多くのマダケが同じような状態でした。道を挟んで反対側にも管理されていない竹林が続いているので伝染が心配です。

今回確認した種数は前回よりやや減少し延べ約370種でしたがこの時季の草の生長の早さ、主役交代の変化には驚きます。植物が活動の最盛期を迎えていることを実感しました。

タケ類天狗巣病に罹ったマダケ

里山セミナー報告

坂　弘毅

平成24年度第2回公開里山セミナー「竹林拡大の侵略生態と利用」

うしく里山の会は、これまで、会の設立主旨に応じたセミナーを開催してきましたが、今回も里山には大変重要な課題である「竹」にフォーカスをあて、公開セミナーを実施しました。

6月30日、ネイチャーセンターにおいて、現代の社会問題となっている「竹林拡大」の弊害等について秋山　侃さん（うしく里山の会会員・農学博士・岐阜大学名誉教授）に講師をお願いいたしました。

今回のセミナーは昨年予定されていましたが、東日本大震災の直後と言うことから、1年遅れて開催にこぎ着けました。

竹林と言いますと、タケノコがまずはじめにイメージされますが、実態は大変なことになっていたのです。

質問に応える秋山氏

まず、竹の生態について、どのような種類があるのか、そしてどのような環境に生育し侵略していくのか等を学び、立地環境や病気を知りました。

タケノコしか知らなかった参加者には大変な衝撃であったかと思います。

今回の参加者は40名強、と狭いレクチャー室が一杯になる盛況でした。特に秋山先生のお話は大変分かりやすく、一つ一つ目から鱗という感じがしました。参加者の大半は、竹を何とかしたいと参加した方が大半ではなかったかでしょうか。このような方々には示唆にとんだお話が聞けたものと思います。

特に、竹林を撲滅したい方、利用したい方等には大いに参考になった事でしょう。そして真竹に病気が蔓延している実態に認識を新たにしました。

「真竹天狗巣病」という聞き慣れない言葉ですが、関西地方では93％の真竹が罹患、絶滅も時間の問題と言うことでした。しかし、地元牛久市内でも、健康な真竹は見あたらず、ほぼ大半が「真竹天狗巣病」を罹患していることが分かりました。完全消滅（枯死）する迄には、10年規模の時間がかかるかも知れませんが、いずれ消滅、花が咲く環境にはありませんので、種子は出来ず、再生が不可能であるというお話しも大変ショッキングでした。

講演終了後、質疑応答を行いましたが、身近な竹に対する素朴な質問が多く、竹が生活に密着した対象であることがわかりました。

参加者のアンケートから、データや数字が多く難しいという意見もありましたが、我々里山の会の実務派には大変示唆に富んだ有意義なセミナーであったかと思います。

■セミナーのレジメあります。希望者は観察の森にお問い合わせください。

小野川探検隊に参加して

佐藤　輝雄

7月21日（土）小野川探検隊の行事が行われ、うしく里山の会から3名がスタッフとして参加した。

場所は稲敷市和田公園および小袖ケ浜前浜。和田公園は霞ケ浦に突き出した和田岬にある自然公園である。小袖ケ浜前浜は人工の砂浜で通常は立ち入り禁止の場所になっている。当日は比較的涼しく活動しやすい天気。参加は小野川流域に住んでいる小学生と父母で稲敷市・竜ヶ崎市・牛久市・つくば市から約60人が参加された。

最初に小袖ケ浜で引き網を行って小魚を捕獲し捕った小魚の名前を勉強した。水温が低いにもかかわらず全身ずぶぬれになってはしゃぐ子供たち。大人も一緒に夢中になる姿には、このような経験はほとんどないのだろうと思う。

とれた魚は、ワカサギ、大タナゴ、テナガエビなどである。

ひき網に入った小魚を捕まえる子どもたち

当日は霞ケ浦のワカサギ漁の解禁日でもあり、トロール網から抜けて死んだ小さなワカサギが、浜に白くなるほど打ち上げられていた。

湖で遊んだあとは、和田公園で昼食。ゆでたトウモロコシやスイカが配られ、皆思い思いで昆虫などを探しながら草むらで遊んでいた。

＊小野川探検隊は国土交通省・市町村・各団体等で構成され小野川と流入先の霞ケ浦の水質浄化について考えてもらうことを目的に設立された。うしく里山の会も参加している。

事務局便り

【受講者募集のお知らせ】

うしく里山の会では労働安全衛生法に基づく刈払機取扱作業者／チェーンソー取扱作業者安全衛生教育講習会を開催いたします。是非、ご参加下さい。

①刈払機取扱作業者安全衛生教育講習会

日時：平成24年9月14日（金）
午前9時～午後4時
受講料：7500円

②チェーンソー取扱作業者安全衛生教育講習会

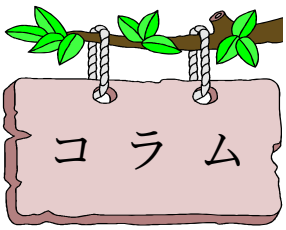
日時：平成24年9月29日（土）30日（日）
午前9時～午後5時
受講料：12500円

申込方法：牛久自然観察の森に電話で予約後、申込書を郵送

申込先029-874-6600
〒300-1212　牛久市結束町489-1
牛久自然観察の森

応募〆切：①9月6日必着　②9月20日必着

会場：①②ともに牛久自然観察の森
ネイチャーセンターで開催



超高齢社会における里山の守り方

坂　弘毅

最近、高齢化とか超高齢社会などと耳にする機会が多くなりました。牛久の高齢化率は20％ほどで、さほど高くはないようですが、数字だけでは判断できません。牛久の場合20％の中身が問題です。牛久は農村部と旧市街地、旧大型団地などの他、ひたち野うしくという新興住宅地がモザイクのように広がっています。したがって、20％の中身を分析すると、農村部や旧大型団地では、40％にすぐ手が届く超高齢地域が出てきています。ひたち野うしくは若い町ですから、高齢化率5％と極めて若く、これらが相殺されて平均20％という数字が出ているのです。数字だけでは問題は見えてきませんが、内情は限界集落（50％）の予備軍があることを理解しなくてはなりません。

このような超高齢社会という社会環境の中で、休耕田、休耕地の拡大、そして里山の荒廃が進んでいます。

日本人が創り出した里山という環境には、生物の多様性という観点からも、この環境でしか生きる術を知らない動植物がいることを忘れてはなりません。したがって、どのような事情があっても、この環境を維持し守らなくてはならないのです。このような社会的な背景の中で、誰がこの環境を守り後世に引き継ぐかです。理屈では、住民の意識改革無くして成し遂げることは出来ないとか、行政の意識改革が遅れている等々、ありきたりの理屈がまかり通っています。では真の意識改革を誰に望むのかです。農村部の住民なのか、それとも行政なのかと言う議論が出てきます。しかし、こんな議論では何も前進はしないでしょう。ここでは評論家は要りません。

美しい里山を未来に！

「美しい里山を未来に引き継ぐ」（＊うしく里山の会の設立主旨）という大義名分等問題意識を持つ者自らが率先して行動を起こすことです。農村部の地権者に望むのではなく、新住民に動員をかけるのではなく、問題意識を持った者が率先して行動を起こすことだと思います。それには新旧住民という分け隔てなく、同じ志を持つ人たちの機動性によって結果がもたらされます。そして、それらの活動に行政（県や市町村）が適宜サポートするという「新しい公共」の基本原則がこの時代には求められます。この時期「若者は高齢者に頼りっきりだ」等々、高齢者の愚痴が聞こえてきますが、愚痴っている場合ではありません。現役世代には現役世代のやるべき事があります。ですから、出来るのは高齢者しかいないのです。愚痴って手をこまねいているのではなく、時間に余裕のある高齢者が理屈抜きで行動を起こすことだと思います。

身近な樹木 No.17 ムラサキシキブ

クマツヅラ科ムラサキシキブ属の落葉広葉樹の低木で、高さ3m内外。北海道～琉球、県内でも全域に分布しています。市内では斜面林下部や雑木林などに自生し、植栽も見られます。

樹皮は灰褐色で小枝は斜上。葉は対生し、長楕円形で長さ3～13cm、幅2・5～6cm。裏面には帯黄色の腺点があります。縁全部に細かい鋸歯があり、先は尾状にとがり、2～7cmの葉柄があります。花期は6～7月、花序は葉腋または葉腋の上から出て、6～15mmの柄があります。花冠は長さ3～5mm、淡紅紫色で先端が4裂し、雄しべは4本で、花冠の上へ突き出ます。果実は球形で径約3mm。10～11月に紫色に熟します。

枝葉・花序に軟毛が多いヤブムラサキは牛久では自生が確認されていません。コムラサキは高さ2m内外の落葉低木で、枝が伸びて先が下垂し、葉は長さ3～5cmの倒卵状楕円形で先が鋭く尖り、縁には上半分だけ鋸歯があります。果実が美しいので、よく庭木に植えられています。

ムラサキシキブの葉と花序　12.6.29

ムラサキシキブの名で庭に植えられているものの多くはコムラサキです。

名前は優美な紫色の果実を紫式部の名をかりて美化したものです。

（平塚芳雄）

2012年 8月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	3 ○クラフトプロジェクト 13:00NC	4 ○親子農業体験講座 9:00畑 ○チーム’街路樹20(受) (懇親会)
5	6 (休園日) ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	7 ○森の畑 9:30畑 ○巨木リサーチ2(特) 13:30ボランティアC (HB編集委員会)	8	9 ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	10	11 ○里山自然観察隊 (モニタリング里地調査) 8:30得月院前P
12 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ [会報等原稿〆切]	13 (休園日) ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	14 ○森の畑 9:30畑	15	16 ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	17 ○クラフトプロジェクト 13:00NC	18 ○親子農業体験講座 9:00畑
19 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC	20 (休園日) ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	21 ○森の畑 9:30畑	22	23 ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	24	25 ○チーム’街路樹20(受) 13:00ボランティアC (交流会)
26 ○雑木林応援隊 9:00炭屋 (草木染め教室)	27 (休園日) ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	28 ○森の畑 9:30畑 ○会報発送 13:00NC	29	30 ○アヤメ園(受) 6:30アヤメ園P	31	

※活動日は天候等により変更となる場合があります。

最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

森:牛久自然観察の森
NC:牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P:牛久自然観察の森駐車場
炭小屋:牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑:牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ:牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑:牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所:牛久市役所本庁舎
市役所脇:市役所横の近隣公園
ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C:牛久市中央生涯学習センター

アヤメ園:三日月橋観光アヤメ園

(休園日):牛久自然観察の森休園日
(受):受託事業
(特):特別事業

編集後記

会報の編集を担当していると時間の経過が本当に早い！

そしてもう夏本番。先日の数日間は22度前後の気温で何をするにも楽な日々だった。しかし、7月の後半は本来の夏が戻ってきた。九州地方での豪雨も峠を越したが、現地の被災者の方々には心からお見舞い申し上げたい。

夏をカレンダーで追ってみると、夏とは天文学上では夏至（6月21日）から秋分（9月22日）までの1年の4分の1をいう。24節気では立夏（5月5日）から立秋（8月8日）の前日までをさすようだ。日本では一般的に6・7・8月を夏と呼ぶ。

24節気では、○立夏（5月5日）：夏の気配が感じられるころ。○夏至（6月21日）：1年中で昼が一番長い日。○小暑（7月7日）：梅雨明けが近づき暑さが本格的になるころ。○大暑（7月23日）：快晴が続き気温が上がり続けるころ。○立秋（8月8日）：初めて秋の気配が現れてくるころ。○処暑（8月23日）暑さが峠を越えて後退しはじめるころ。　とある。

また、季節の挨拶では小暑あるいは大暑から立秋までを「暑中見舞い」、立秋以降は「残暑見舞い」となるのが一般的のようである。

そして気象予報での「夏日」は25℃以上、「真夏日」は30℃以上、ヒートアイランドで35℃以上が多くなった2007年から気象庁は「猛暑日」を設定したとのこと。

すでに今年も熱中症で犠牲者が出ている。会員の皆さんも活動には十分暑さ対策を講じていただきたい。

佐藤　輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年9月号の発送は8月28日(火)発送の予定です。うしく里山の会ホームページではカラーの会報を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちしております。　　メールのアドレスは(u-satoyama@jcom.home.ne.jp)です。

※表紙上段の「うしく里山の会」のホームページのアドレスが変わりました。